

## 第 3 回 2018 年 6 月 14 日 (木)

第 3 回の一류塾では、講師に大田弘子氏（政策研究大学院大学教授、内閣府規制改革推進会議議長、元経済財政政策担当大臣）と大山健太郎氏（アイリスグループ 会長）を、懇親会の特別ゲストには白石真澄氏（関西大学政策創造学部教授）をお迎えしました。



【講師 大田氏】

第 1 部では、『日本経済の成長戦略』と題して大田氏が講義を行いました。大田氏は、「内閣府規制改革推進会議」議長として、安倍政権の政策の一翼を担われており、大手企業の社外取締役等も歴任されるなど、幅広くご活躍されています。講義の冒頭、1990 年代以降の世界経済の大転換を振り返り、その中で日本経済がグローバル化と高齢化に対応できずに抱えた 3 つの弱みについてご説明され、日本の競争力の低下に対する強い危機感を示されました。そのうえで、これを克服するための成長戦略の必要性、特に潜在成長率を上げるために、イノベーションを起こし、企業の新陳代謝を高め、生産性を向上させることが不可欠であると話されました。そして、イノベーションを阻害している規制改革への取り組みについて具体例を挙げてご紹介頂きました。終盤には、日本企業の潜在力を開花させるために、変化を恐れず、異質なものの受け入れて「内なる改革」を進めることが重要であると強調されました。塾生からは、「変わらない日本、多くの古い規制、これらを変えるためのパワーが必要だと感じた。まずは自らが変わる勇気を持ちたい」、「危機感をどう共有できるのか、どう行動すべきか考えさせられた」などの感想が寄せられました。

第 2 部では、『ユーザーインの経営』と題して大山氏が講義を行いました。今回塾生は、大山氏の小冊子「ユーザーイン経営」を事前学習して臨みました。講義では、プロダクトアウトから、マーケットインを経て、生活者目線のユーザーイン経営へ常に視点を変えて業態を転換してきた過程をご説明頂きました。その根底には「いかなる時代環境においても利益の出せる仕組みを確立する」という企業理念があり、新商品率 50%超を支える商品開発の仕組みについても、「誰のために何を作るのか」という視点であることも強調されました。そして、「マーケティング」、「プロダクト」、「ロジスティクス」などあらゆる側面での大胆なイノベーションを具体例と共にご紹介頂きました。最後には、ピンチはビッグチャンスととらえて、変化を恐れず頑張ってくださいと激励されました。塾生からは、「ユーザー視点で市場・需要を創造する発想力と実行力に感銘を受けた」、「ユーザーイン経営のコンセプトはすべてのビジネスに通じると感じた」、「誰のための会社か、何のための会社か、ユーザーが何を求めているかを考えることでこんなにビジネスチャンスを見出せるのかと感心した」といった声があがりました。



【講師 大山氏】



懇親会では、一柳塾長による開会の挨拶ならびに、一流塾顧問の渡邊五郎氏（元三井物産副社長）による乾杯の後、特別ゲストの白石氏から、『ダイバーシティの時代』と題して卓話を頂きました。白石氏は、人口減少、少子高齢化のこの時代には、女性、高齢者、外国人など多様性を包含した組織と多様な働き方が求められると語り、ダイバーシティ経営の効果と働き方改革の成功事例をご説明頂きました。そして、経営トップの意識改革こそが最重要課題だと締めくくられました。白石氏のユーモアにあふれたお話しに塾生は熱心に耳を傾けていました。

卓話の後には、一流塾特別顧問の福川伸次氏（(一財)地球産業文化研究所顧問、東洋大学理事長）にもご挨拶いただき、その後、講師・ゲストと塾生との盛んな意見交換や議論が続きました。

懇親会後に塾生有志が塾長を囲んで行われた放談会では、スペシャルゲストとして官僚の方にお越し頂き、日本の成長戦略に関する大所高所からのお話塾生も熱心に聞き入り、熱い議論で深夜まで盛り上がりました。



【特別ゲスト 白石氏】



懇親会風景



放談会風景